

ひきこもりに関する調査結果概要

令和3年1月14日
山梨県福祉保健部障害福祉課

1. 調査の手法・目的

ひきこもりの背景や要因は多様であることや、ひきこもり当事者の生活を支えてきた親も高齢となり、病気や要介護状態をきっかけに一家が生活困窮に陥り社会的に孤立する、いわゆる「8050問題」の視点も加え、社会全体での多面的・総合的なアプローチが必要となっていると考えられることから、今後のひきこもり当事者や家族への支援につなげるための基礎資料とすることを目的として、本調査を実施することとした。

調査の手法は、平成27年度と同様に、山梨県民生委員児童委員協議会及び市町村民生委員児童委員協議会の御協力を得て、民生委員・児童委員の皆様が把握されている担当地区の情報（個別訪問や関係先等への照会を行わない）を調査票に記入してもらう形とした。

2. 実施主体

山梨県及び市町村

3. 調査対象

この調査では、概ね15歳以上で、次に該当する者を「ひきこもりの状態にある者」とした。

- (1) 社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の者
- (2) 社会的参加ができない状態が6か月以上続いているが、時々買い物などで外出することがある者

※ ただし、重度の障害、疾病、高齢等で外出できない者を除く。

4. 調査基準

令和2年9月現在

5. 調査方法

県内の民生委員・児童委員が、担当地区における、ひきこもり当事者等の情報を調査票に記入し、市町村が調査票の配布及び取りまとめを行い、県は集計・分析を行った。

6. 回収結果（有効回収率）

民生委員・児童委員2,282人に配布し、1,928人（84.5%）から回収（前回：79.2%）

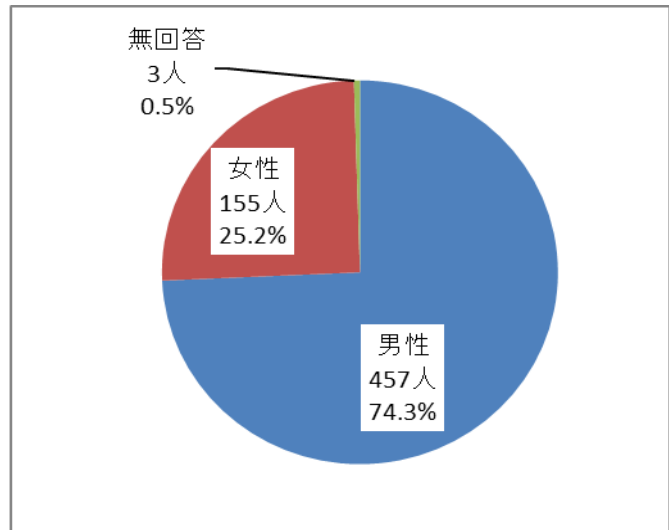
7. 調査結果概要

(1) 該当者の人数・性差

○ ひきこもり該当者615人（前回：825人）。

○ 性別について、男性の割合は74.3%（前回より10.3ポイント上昇）。

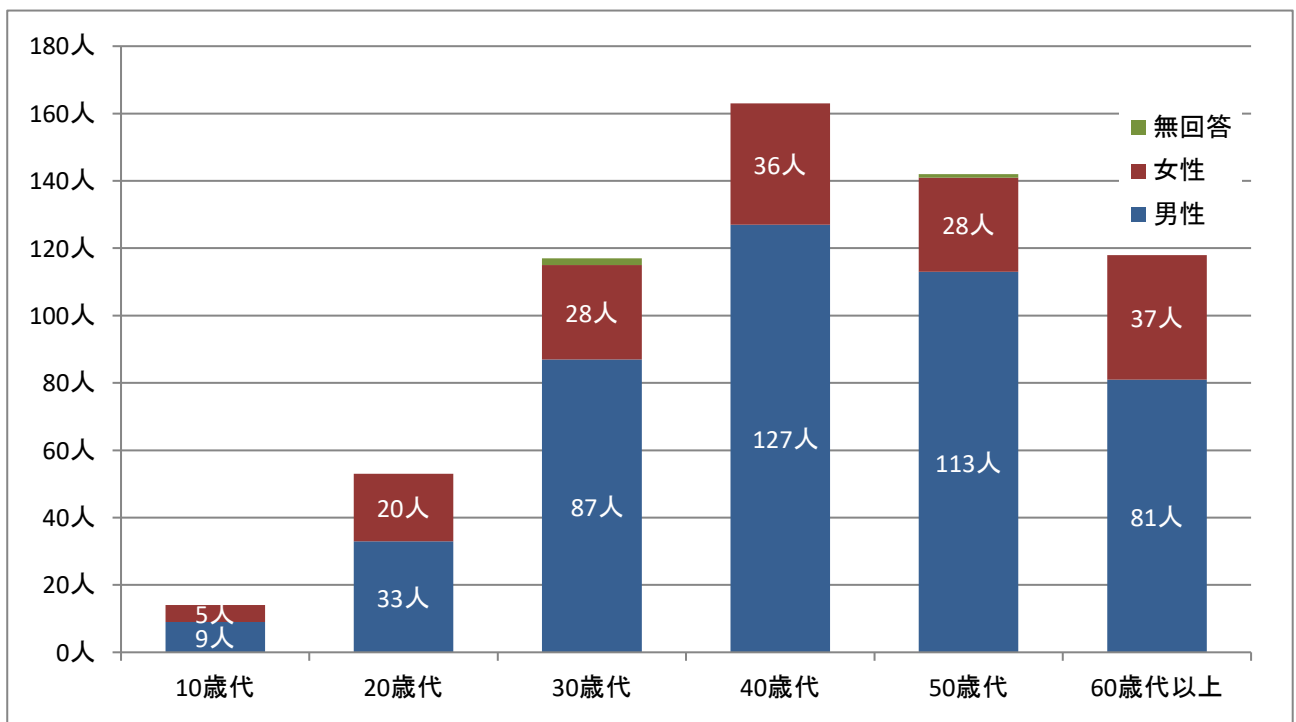
性別	該当者数	割合
男性	457人	74.3%
女性	155人	25.2%
無回答	3人	0.5%
合計	615人	100.0%



(2) 年齢構成

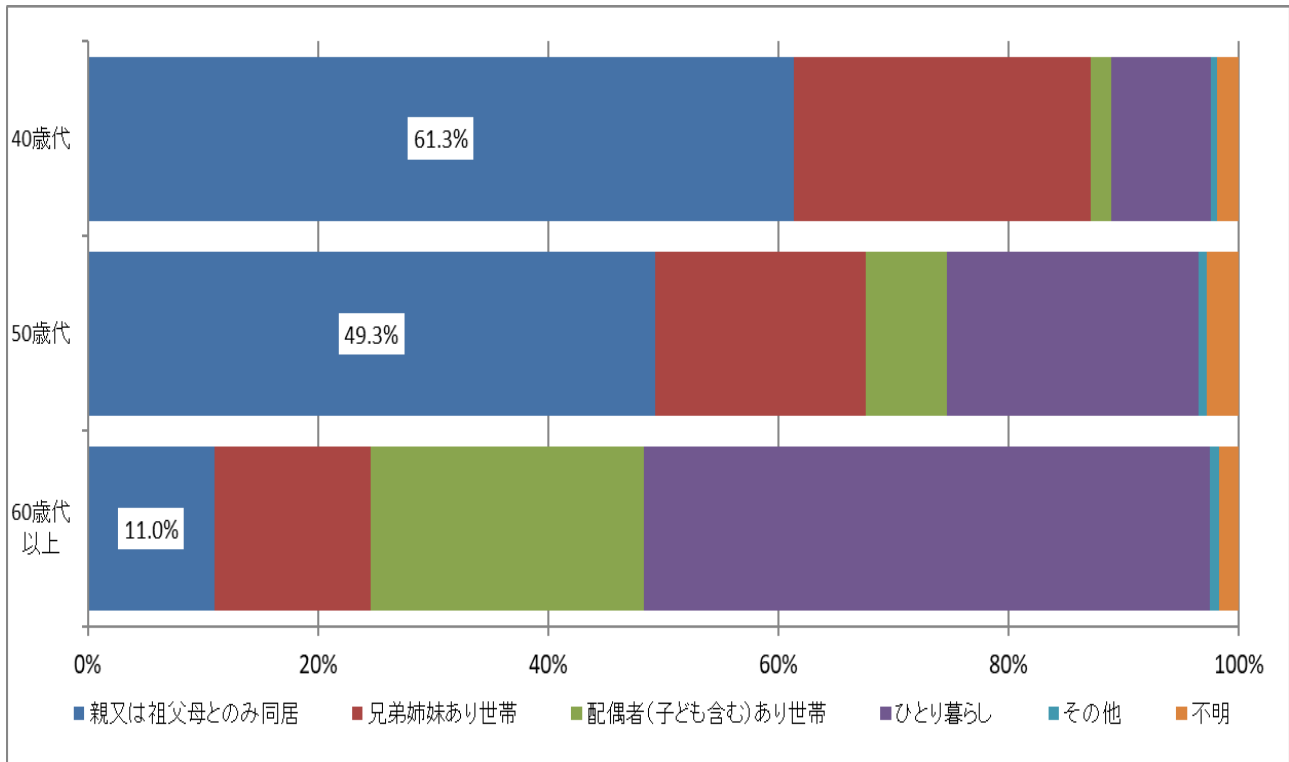
○ 年齢構成について、40歳代以上が69.7%（前回より9.3ポイント上昇）。

年代	男性	女性	小計	無回答	合計	年代別割合 (年代無回答除く)	「40歳未満」 「40歳以上」 (年代無回答除く)	「40歳未満」 「40歳以上」 割合(年代無回答除く)	年代別出現率
10歳代	9人	5人	14人	0人	14人	2.3%	184人	30.3%	0.03%
20歳代	33人	20人	53人	0人	53人	8.7%			0.07%
30歳代	87人	28人	115人	2人	117人	19.3%			0.13%
40歳代	127人	36人	163人	0人	163人	26.9%			0.14%
50歳代	113人	28人	141人	1人	142人	23.4%	423人	69.7%	0.13%
60歳代以上	81人	37人	118人	0人	118人	19.4%			0.04%
小計	450人	154人	604人	3人	607人				
無回答	7人	1人	8人	0人	8人				
合計	457人	155人	612人	3人	615人		607人		0.09%



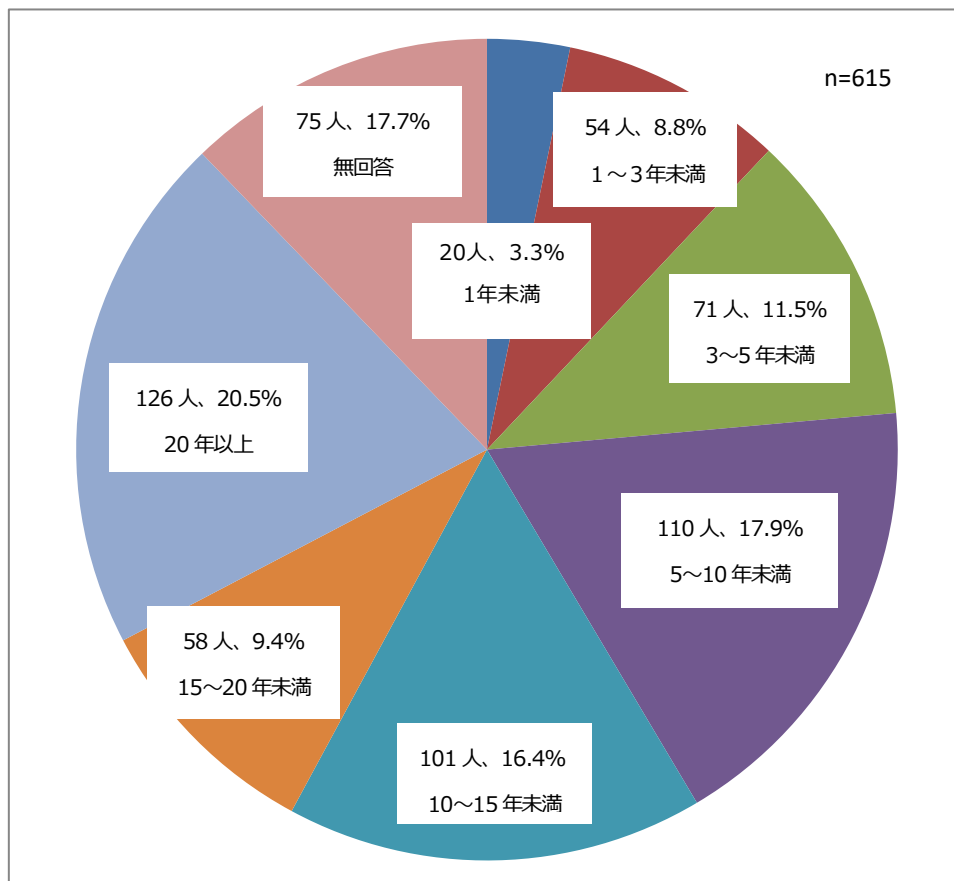
(3) 40歳以上の家族構成

○ 40歳以上の家族構成について、親又は祖父母とのみ同居している割合が、40歳代では61.3%、50歳代では49.3%、60歳代では11.0%。



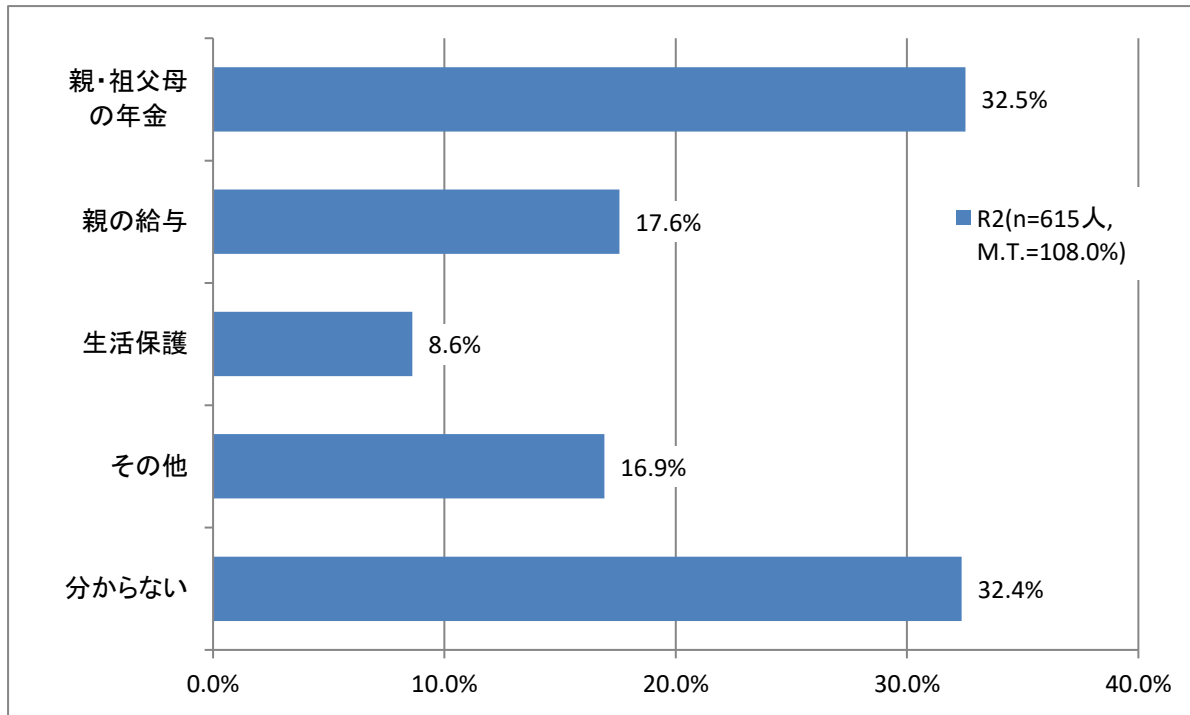
(4) ひきこもりの状態にある期間

○ ひきこもりの状態にある期間について、10年以上ひきこもっている者は46.3% (前回より7ポイント上昇)。



(5) ひきこもり該当者のいる家庭の主な収入状況（複数回答）

- ひきこもり当事者のいる家庭の主な収入状況について、「親・祖父母の年金」が32.5%、次いで「親の給与」が17.6%。



(6) 自由意見から

【調査の困難さ】

- ・調査の内容については民生委員でも把握できていない。把握できない内容も多い。
- ・世帯票などから推測は出来るが、直接の確認は家族からの拒否も予想され、実態把握の難しさを感じる。
- ・世帯へ声をかけづらい。家族も隠しておきたいと思う。

【ひきこもりに対する認識】

- ・御家族が周りに話さないことが多く、近所でさえ気がつかないことが多い気がする。
- ・社会問題化して久しいが、地方の小さなコミュニティにおいては、家族、親族等が公にしたくない気持ちが強いため、実態が掴めず難しい問題。
- ・当事者も隠れている訳ではないと思う。相談支援を受けられることの気づきがないのかも。
- ・ひきこもり期間が長くなると、近所の人も声をかけづらくなり、家族も黙ってしまう傾向にある。皆がどうすれば良いのか悩み、解決策も見つからないまま経過しているのではないだろうか。

【家族の状況】

- ・御家族は心配しているが、本人の生活を無理矢理変えることには強い不安感があり、現在に至っているようだ。
- ・高齢の母親が当事者のために家事全般を担っており、大変な生活をしている方もいる。状況を誰にも伝えられず、母がひとりで困っている。

【今後の希望】

- ・身近に相談できる窓口等を周知し、気軽に相談できる環境を整えることが望ましい。
- ・早期からの相談支援等が大切だと思う。
- ・御家族が相談しやすいように相談体制の工夫があればと思う。家族教室や家族の相談窓口が身近にあると良いと思う。
- ・御家族の精神的な不安・負担についても支援をお願いしたい。